（別紙様式）　　（Ａ３判横）

令 和 6年 度　学 校 自 己 評 価 シ ス テ ム シ ー ト （ 県立いずみ高等学校 ）

S 29

目指す学校像	地球環境のよき理解者としての、グローバルな視点をもった、品格あるスペシャリストを育成する学び舎

重点目標	1　普通・専門教科それぞれの授業の質を高める（学力向上）とともに、キャリア教育を充実させ、将来にわたって学び続ける意欲をもった生徒を育てる。 2　「時を守り、場を清め、礼を尽くす」を実践し、プロフェッショナル人として、規範意識を高めるとともに、他人を思いやる心等、豊かな心を育成する。 3　教育内容や特色・強みを地域社会に発信し、地域との協働による開かれた学校づくり・教育活動を推進する。

達成度		
	A	ほぼ達成（８割以上）
	B	概ね達成（６割以上）
	C	変化の兆し（４割以上）
	D	不十分（４割未満）

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	３名
	生徒	３名
	事務局（教職員）	10 名

※　重点目標は３つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目（年度達成目標を意味する。）は複数設定可。
※　番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学　校　自　己　評　価

年　度　目　標　／　年度評価（２月１日　現在）

番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
1	【現状】 年次進行でタブレット導入もスタートした。本校では実習と ICT を両立したハイブリッドな学習の在り方が求められる。 【課題】 すべての教職員が ICT 活用のスキルを身に付けると同時に Google classroom 等の活用を図り、生徒の活用と教職員のスキルアップと業務の効率化に取り組む必要がある。	【生徒】 ○生徒が ICT 等も活用し主体的に学びに向かえるよう学習環境の整備を図る。	①各教科で本校の学びの特色や魅力の理解・定着を図りながら、学習への興味関心を生徒が定着できるようICTを活用する。 ②専門教科を中心に本校の特色でもある各種検定・資格取得の活動をとおして生徒にチャレンジする向上心を育む。	①ICT学習理解の定着と実習等の時間を確保できるよう意識啓発を行えたか。 ②各種検定・資格に取り組む生徒の割合や合格者や取得級などの実績が向上したか。	学習環境の整備を進める観点から、各教科・学科が意識的に取り組んでいた。 ① 昨年度からのタブレット導入により ICT は概ね活用が図れた。学習到達度テスト等はタブレット利用での受験とすることで生徒・教員の操作の習熟度の底上げができた。 ② 各学科、朝学習への参加者らが積極的に資格取得に向け努力した。	B	各教科で今後のオンライン授業も見据えた授業展開の在り方も模索しなければならない。 教員間での機器操作習熟度には依然として差があり、研修会や授業公開週間による互見、ICT 指定研究授業の設定等を通して、習熟度の底上げを図る。
		【教職員】 ○ICT 活用による魅力ある授業づくり及び進路実現に向けたガイダンス機能と資質向上を図る。	①タブレット導入に合わせて教職員全員がGoogle classroomの活用に取り組む。 ②進路指導部と各学年は進路実現に向けて、生徒自ら情報収集しキャリア形成するためのサポート指導体制を構築する。	①授業満足度が80%以上維持できたか（目標値+10%）＊。 ②進路実現に向け、主体的に行動し、進路を決定できたか。（前年比）＊	Google classroom も授業だけでなく補習や情報共有などの場面での活用が増加した。 ① 保護者アンケートでの教育活動への満足度は95%と、昨年度と同水準を維持した。 ② 進路実現に向け、求人票をはじめとした進路情報の Web 閲覧や論文指導の充実を図ることができた。インターンシップ参加者も県事業への参加もあり増加した。	A	アンケートの結果に満足せず、本校の施設設備を活かしつつ、ICT 活用を積極的にからめた本校独自の授業を構築していく。 進路指導でも、生徒が進路情報へのアクセスがよりしやすくなるよう、環境整備を継続する。
2	【現状】 落ち着いた学校生活を送る生徒が多い中で、生徒の特性や多様性をふまえ、より一層丁寧な説明や対応が求められている。 【課題】 社会貢献するプロフェッショナル人材の育成のため「時を守り、場を清め、礼を尽くす」指導が浸透するよう引き続き組織的に継続していく必要がある。	【生徒指導】 ○社会人としての規範意識を向上させる。	①生徒指導部、通級委員会等は生徒の特性や実態をふまえ、保護者や関係機関と連携していく。 ②生徒指導部は指導方法やルールを明確にし、学校全体で共通理解を図り、実態に即した遅刻指導や整容指導体制を構築していく。	①生徒特性に対応し、学習に取り組める環境づくりを実施する。 ②遅刻指導や整容指導の対象生徒は例年に比べて減少したか。（前年比）＊	保護者アンケートでも生徒指導の充実を求める意見は増加傾向であった。 ① 生徒の特性や実態を踏まえた適切な指導・対応ができた。さらなる充実を図っていく。 ② 特別指導は増加傾向となったが、学校を良くしようという職員の機運の表れだと捉える。今後も継続して指導の改善のための対策に取り組む。	A	規範意識の向上を図るため、今後も継続して指導の充実を進めていく。多様化する生徒への対応、指導の在り方も、時代の在り方や社会情勢を踏まえながら引き続き指導項目の検討を重ねていく。
		【学校行事】 ○教育活動を通して多くの生徒が参加・活躍できる行事運営を行う。	①学校行事や HR、教科指導の中で、一人ひとりが活動に参画し達成感を得られる工夫を図る。 ②各分掌・学年は、学校行事では、生徒の活動を最大限確保する。	①生徒が意欲的に学校行事に活動できたか。 ②昨年度以上に各種教育活動を円滑かつ安全に実施することができたか。	今年度、学校行事がコロナ禍前の状況に戻り、一部手探りな面もあったが、生徒は主体的に行事運営に取り組んだ。 ① 学校行事を通してクラスへの帰属意識や人間関係の構築を図ることができた。 ② 保護者の協力もあり、文化祭・体育祭も円滑に実施することができた。	B	生徒の人間関係づくりは学校教育・生徒の人格形成の根幹でもある。学校行事が実り多いものとなるよう、生徒が主体性をもって運営ができるよう、アプローチの工夫と質の改善を図っていく。
3	【現状】 今年度も専門高校として企業・異校種・地域等と連携して、オンリーワンの魅力ある高校を目指す。 【課題】 地域に根ざした魅力ある専門高校として、生徒募集に関する情報発信をはじめ、本校の取り組み（SDGs）を意識した地域連携を充実させていく。	【地域連携・生徒募集】 ○地域連携の継続と生徒募集に向けて学校の魅力 PR に効率的に取組む。	①各学科は教育内容と地域・企業との連携により、実践的専門教育充実を図る。 ②広報部を中心に、昨年同様の倍率確保を目標に本校の魅力を中学生へ PR する。	①各学科が工夫し、地域や企業と連携した取り組みが順調に進んだか。 ②本校の魅力を生徒募集に繋げることができたか。（前年比）＊	各学科を中心に積極的に地域・企業・学校と連携しさらに特色ある取り組みができた。 ① 部活動も含め、自治会、公民館、小中学校、専門学校、大学、企業等との連携を深めた。 ② 昨年度同様、生徒募集にも積極的に取り組み、12 月調査で入学志願倍率 1.25倍と高水準を維持した。	A	各組織（教科・学科・分掌・部活動等）が連携して行っている取り組みが充実発展するよう取り組んでいく。そうしたことを本校の魅力として積極的に情報発信していく。
		【広報広聴】 ○学校HP等の充実と迅速な情報提供システム、安心安全で開かれた学校づくりを行う。	①広報部を中心に、動画・写真掲載を増やし、分かりやすい学校紹介、未更新ページの充実を行う。 ②管理職等は危機管理対応のための情報発信を行い、生徒や保護者に対して安心安全な情報提供に努める。	①学校HPの充実とページ内更新が順調に進んだか。 ②生徒・保護者に対して学校からの各種情報が適切かつタイムリーに提供できたか。	学校ホームページは、さらに更新頻度の向上と内容の充実を図ることができた。 ① ホームページの閲覧回数は約 3000 回/日となり、情報発信・生徒募集の重要なツールであるため、さらなる充実を図る。 ② 保護者への確実な情報提供に ICT 活用を継続していく必要がある。学校行事の変更や自然災害・天候等の状況変化への対応も円滑に行う。	A	ホームページのさらなる内容向上と更新頻度の増加を図る。そのことで、閲覧回数の増加、生徒募集に資する。 保護者や職員への情報提供に連絡網アプリの活用を一層充実させ、臨機の対応も機敏に行う。

＊は学校評価アンケートによる

学　校　関　係　者　評　価

実施日　令和７年２月２日

学校関係者からの意見・要望・評価等

いずみ高校は「特色のある所」を大切にしてほしい。いずみ高校としての開校時の想いも踏まえて、授業内容や教育活動の改善に取り組んで欲しい。

進路実績の向上は、先輩方の努力によるところも大きい。今後の進路活動では、一般的な就職の形にとらわれすぎないことも必要になる。働く＝就職する、ではない時代になっており、より広い働き方への理解が必要になってきているので進路指導にもその視点が必要な時期に来ている。

あいさつ運動への参加などから、遅刻者が減少していることなど、学校の指導の様子が良くわかる。また、生徒の良い変容は服装の変化にも表れている。今後も職員全体で継続して指導に取り組んでいくと良い。

SNS の利用をはじめとした生徒が無自覚ゆえに犯罪に巻き込まれることが無いよう、指導項目の現代化も同時に進めていく必要がある。

地域の清掃ボランティアに参加いただき感謝している。地域との交流は今後もぜひ継続していただきたい。

いずみ高校は地域と結びついて魅力の多い学校である。それらを上手く発信できれば、必ず魅力は伝わると思われる。